

## 平成 29 年度国際言語文化アカデミア事業計画に対する事前評価

平成 29 年 4 月 28 日

国際言語文化アカデミア外部評価委員会

神奈川県立国際言語文化アカデミアは、多文化共生社会の実現に向けて、「国際社会で活躍できる人材の育成」、「外国籍県民がくらしやすい環境づくり」及び「県民の多文化・異文化理解の推進」を3つの使命として、平成 23 年度から県民向けに講座を開講してきました。

国際言語文化アカデミア外部評価委員会は、国際言語文化アカデミアの設置目的である多文化共生社会づくりへの言語・文化の面からの貢献を踏まえて、より効果的・効率的な事業推進を図るため、アカデミアが実施する事業内容や実施方法等に関し、事業評価を実施することを目的として、平成 23 年 7 月 1 日に設立され、現在に至っています。

この間、平成 26 年度には、県の「緊急財政対策」の一環として、国際言語文化アカデミアの今後の方向性を判断するため、平成 25 年度までの 3 年間の事業展開をもとに、その機能や組織・運営面について、外部の有識者による機関評価が行われました。

その結果、国際言語文化アカデミアでは、その専門性を多文化共生社会の実現に向けてより一層活用していくため、3つの使命を継承しつつ、県の果たすべき役割と限られたマンパワーを踏まえ、異文化を理解しつつコミュニケーション能力を有する、より実践的、中核的な人材育成の機能を強化することとし、事業の見直し・再編成を進めて、平成 28 年度から完全移行いたしました。

また、成果指標を設定した上で活動結果を検証し、3年ごとに組織全体のあり方を評価する「しくみ」を構築することとし、平成 28 年度に成果指標及び調査方法を試行的に設定いたしました。

さらに、平成 27 年度に実施された包括外部監査の意見を踏まえ、平成 28 年度から、従来の土曜日に加え、日曜日の開講機会を設けました。

こうした見直しの実績をもとに、国際言語文化アカデミアでは、以下の内容などを事業実施方針として、平成 29 年度の事業計画を作成しました。

- ・機関評価を受けて見直し・再編に取り組んできた事業体系・講座構成の完全移行 2 年目にあたり、多文化共生社会の実現に向け、より実践的・中核的な人材育成機能を強化できるよう、限られた人員体制の中、メリハリのある講座カリキュラム設ける。
- ・受講者のニーズ等を的確に把握し、年間を通じて柔軟に講座を展開していく。
- ・平成 28 年度に試行的に設定した成果指標の運用・調査の結果を踏まえ、改めて KPI（重要遂行評価指標）となる成果指標、調査方法及び数値目標を設定のうえ、平成 29 年度に予定される機関評価をはじめ、今後の検証・評価に活用していく。
- ・週末の開講講座については、平成 28 年度の実施状況や受講者のニーズ、施設の効率的・効果的な運営にも留意しながら、引き続き充実に努める。
- ・引き続き、横浜駅西口「KANAFAN ステーション」において講座を開講するほか、平成 28 年度に設置された多言語支援センターとの多様な連携を進めていく。

今回、外部評価委員会では、平成 29 年度事業計画に係る事前評価を行うに当たり、機関評価に伴う事

業の見直し・再編成や、包括外部監査において出された改善意見の反映の状況や、受講者からのニーズや県民ニーズへの対応の状況を主眼に評価を行いました。

この評価を基に、平成 29 年度の実施講座がより充実したものとなり、神奈川県における多文化共生社会の実現に寄与することを願います。

## 総 括

実践的・中核的な人材育成機能を強化する方向で再編した事業への完全移行から 2 年目となりますが、時代の流れを的確につかんだ、アカデミアならではの大きなビジョンに基づいた事業計画となっていることを評価します。

また、専任の教員と外部人材の力を組み合わせて講座をマネジメントしていくなど、限られた人員体制の中で、柔軟かつ無理のない講座展開を図るとともに、今後とも後継者の育成や補充ができる体制を維持していくことを期待します。

- ・「外国語にかかる教員研修事業」については、教員研修を児童・生徒の英語力向上につなげていくことが求められており、「英語教育アドヴァンスト研修」の成果を全県的に広げていく取り組みは重要です。また、専門的機関として、先進的な取組みを積極的に導入し、意識の高い教員の学習意欲を刺激し続けることを期待します。
- ・「異文化理解支援事業」については、専任教員と外部講師の講座をバランスよく組み合わせ、2020 年に向けて幅広い講座を展開していくことが望まれます。人材育成の観点からは、情報提供や意見交換の場を設けるなど、受講者の熱意を活かしていくための取組みにも引き続き力を入れていくことを期待します。
- ・「外国籍県民等支援事業」については、地域の日本語教室やボランティアのニーズを的確に読み取り、活動しようとする方々の実践力の向上を図ることが重要であり、新しく設置された多言語支援センターを含め、幅広い機関との連携によって、外国籍県民の支援をめざすことを期待します。
- ・成果指標の導入については、講座の質の向上や効果的な事業展開を目指すうえで大変重要なことと考えます。学習レベルでの成果に重点を置く形で具体的な数値目標を掲げる考え方は概ね理解できるので、職員、受講者に負担をかけることにならないよう、十分留意のうえ、今後講座内容の向上に反映させていくことを期待します。
- ・平成 29 年度に実施予定の機関評価については、事業運営そのものに影響を及ぼすことのないよう、効率的な作業をお願いします。

以下、それぞれの事業について意見を述べます。

### 1 外国語にかかる教員研修事業

講座計画については、アクティブラーニング等、論理的思考力を重視した英語教育改革の大きな流れを先取りしており、よく考えられた、効果が期待できるものになっていると評価できます。

成果指標については、全体的な数字として大変いい結果が出ており、受講者の声に耳を傾けて研修を改善してきた結果として誇りを持っていただきたいと思います。

講座の内容には今後の英語教育に必要な視点を十分含んでいるので、今後、そうした視点を示すキ

ワードを講座名に積極的に入れ込み、先生方への意識付けを図ることを期待します。

#### <英語担当教員研修>

(学習指導要領改訂等の流れを受けた講座展開について)

- ・今般の学習指導要領改訂においては、論理的思考力を重視した方向に流れは大きく変わってきており、アカデミアの講座計画は、その流れをきちんととらえています。ここで特に重要なのは、「聞く」、「話す（やりとりする、発表する）」、「読む」、「書く」の4技能（5領域）の向上に取り組んでいる途上の英語教育の現場に「論理的思考」の考え方がどのように有機的につながるかを分かりやすく伝えることであり、「論理的思考」を前面に出した講座のネーミングの工夫などを、今後考えて行く必要があります。
- ・また、従来から英語を文法や言語スキルのみで考えがちな学校現場に、実際の言語の使用場面で何ができるようになるか、どう分析的に考え、論理的に話すのかといった最終的なゴールを見せていくことが重要です。

(プレゼンテーションのあり方について)

- ・「英語プレゼンテーションの指導と活用」講座の計画に、二大要素としてあげられている「内容」(Content)と「話し方」(Delivery)のうち、「内容」では「イントロダクション」における「つかみ」、「フック」の重要性、「話し方」では、「(原稿を)読まない」、「ジェスチャーも大切」という趣旨が生徒に伝わるようにすることが重要です。
- ・授業もプレゼンテーションだという意識を、英語教員に持たせ、生徒を引き付ける授業ができるようにする講座を期待します。

(「具体的な言葉」で授業を行うことについて)

- ・「授業を英語で進めるための工夫」の講座においては、具体的なイメージができないと、生徒がついていけないので、英語教員がイメージが湧くような具体的な言葉を使うことが重要です。日本人が不得手な、エピソードが具体的に語れるような授業をできるようにすることが望まれます。

#### <小学校英語活動研修>

- ・「簡単な英語だけで楽しく進める外国語活動」の講座が安易なクラスルーム・イングリッシュ講座にならないように期待します。
- ・次期学習指導要領の改定案では、各校の判断で新課程の全部か一部を平成30年から先行実施できるとされたことから、アカデミアでも次期学習指導要領に対応した研修を構築する必要があります。

#### <研究活動>

- ・「高等学校外国語教員研修の生徒の英語力向上への波及効果に関わる調査研究」、「ICTを活用したeラーニングによるライティング指導」は、ともに日常の研修の延長線上にあり、意義が大きい研究です。特に前者はアカデミアのように研修に半ば特化した組織にしかできない内容で、大いに期待できます。

## 2 異文化理解支援事業

地域で活躍する実践的・中核的な人材を育成するための講座カリキュラムに再編後、2年目を迎え、「コミュニケーション支援ボランティア養成講座」の主要言語にフォローアップ編を新設するとともに、アジア・南米系の言語・文化に関する講座をより一層充実する計画となっています。

一方、専任教員数が限られ、また年々減少している状況を踏まえ、外部人材の発掘・活用を積極的に行うなど、専任教員が講座の企画・マネジメントを行う取組みを強化することで、多様なニーズに対応できる講座展開を図るとともに、将来にわたり持続的な事業展開ができる体制構築に努めていくことになっています。こうした方向性をうまく機能させ、効果的な講座運営が継続されることを期待します。

成果指標については反応、学習、実行の3レベルの指標がパーセンテージの形で見やすく示されており、非常に有効であると考えます。その中でも主たる指標とする Can-do 調査については知識、スキル（技能）、態度についての質問を整理したうえで、もう少し質問を具体的なものにするよう精査し、より良いものにしていくことを期待します。

#### <コミュニケーション支援ボランティア養成講座>

- ・カリキュラム面で、中・西・仏語でのフォローアップ編に力を入れ、アジア・南米系の言語講座については言語の種類を増やし、入門編、それをフォローする講座、文化入門的な講座を順次開催するなど、新しい側面が加わっていることを評価します。
- ・受講後のサポート体制として、ボランティアの情報交換の場である「修了者のつどい」「受講者のつどい」が開催される計画になっています。すでにボランティアとして活動を始めた方もいるとのことですが、地球市民かながわプラザとの連携による情報提供や、受講者・修了者同士の意見交換などを通じた、的確なアフターフォローが望まれます。
- ・コミュニケーション支援ボランティア養成のために開発中の教材について、初歩編の原案を自習用教材に再編成して公開する計画であり、継続・発展的な形で教材の開発を進めていることを評価します。

#### <行政職員コミュニケーション能力向上講座>

- ・県の職員キャリア開発支援センターとの連携による、県職員を対象とした研修が好評を得て推移しています。一方、窓口で様々な言語を母語とする方々への対応が必要になる市町村職員への対応については、外国籍県民等支援事業が担当する「やさしい日本語」との役割分担も含め、検討していく必要があります。今後とも行政のニーズに合った役に立つ研修講座を開講し、行政の質的向上を目指すことを期待します。

#### <青少年向け異文化理解・コミュニケーション能力向上講座>

- ・従前の高校の要望に応じた出前講座を改め、平成28年度からアカデミアが自主的に開催する講座に来てもらう形へと見直しを図り、初年度としては比較的多くの応募があったといえます。平成29年度は開催時期について高校生が参加しやすいよう夏休みに入った時期に開催を計画していますが、経験を重ねていくことで、開催時期や講座の内容をより良いものとし、アカデミアの特性を活かした、高校では学べない内容の講座を展開して、参加者の将来に役立つものとしていくことを望みます。
- ・教育委員会に協力を仰ぐなど、広報活動を工夫していくことで、これから羽ばたく高校生に良いものを提供していくように期待します。

#### <研究活動>

- ・コミュニケーション支援ボランティア養成のための教材の開発研究が進められていますが、平成28年度の英語初歩編の応募が非常に多かったことから、目的をより明確化し、自習用教材を開発する

方向になっています。その場合、講座内で使用する教材とは異なり、自習に配慮した説明や内容を盛り込むことが望まれます。

### 3 外国籍県民等支援事業

中心となる外国籍県民等支援ボランティア養成講座においては、日本語ボランティア未経験者向けにオリエンテーション的な講座の新設が計画されています。一方、地域日本語教室で使いやすいビギナー教材の完成版を作成し、協力ボランティアとの間に教材を仲立ちとしたネットワーク形成を目指しています。

また、外国籍県民等の実情の理解を図るため、平成 28 年度に新設された多言語支援センターや福祉系施設等、様々な主体との連携を充実させていく方向です。

成果指標については、最終的には「行動を起こしていない人の数を減らしていく」ことを目標とすべきですが、実際には個人的な家庭の事情等から活動に入れない人も一定数いることから、前提となるものとして、講座実施前と後でボランティア活動に関して積極的な意見を増やすことを、成果指標として設定するという方針は理解できるものあり、その方向で講座を運営していくことを期待します。

#### <外国籍県民等支援ボランティア養成講座>

- ・日本語ボランティアに関するオリエンテーション講座の新設や、「やさしい日本語」講座の広く一般に対応した内容への変更、「日本語ボランティア入門講座」の出前版講座の新設などが予定されていますが、アカデミアの講座をきっかけに、受講者同士がつながり、地域のネットワークが広がっているのが感じられます。自主的に始まるネットワークには力強さがありますが、アカデミアがボランティア同士のネットワークのハブになれるような仕組みを構築していくことを期待します。
- ・「日本語ボランティア活動に活かす心理学」講座のように、ボランティアとして学習者と向き合う心構えなどについて考えることができる機会は他にはなく、評価できるものです。

#### <行政サービスのための「やさしい日本語」等研修講座>

- ・アカデミアで開催する講座のほか、出前で実施する講座については、依頼元にあわせてカスタマイズを行っており、実施自治体から高評価を得ています。特に、「やさしい日本語」の実習に加え、外国籍県民等の来日背景や「役所」に対する考え方の違いなどの「背景」も伝えていることは、非常に評価できます。
- ・新設される多言語支援スタッフ研修は、外国籍県民の社会参加の面で更なる能力発揮につながる第一段階として意義ある講座と考えられます。

#### <生活の自立を図るための日本語・日本社会理解向上講座>

- ・日本語能力試験 N 1 を目指す講座については、分野別として回数を増やすことで、ある程度時間をかけて試験勉強ができるよう再編されています。また、介護の日本語講座については、市町村単位等での出前対応を行うこととし、施設支援者向けの回も設けられることになっており、ニーズに対応したきめ細やかな内容が評価できます。
- ・「はじめてのにほんご」講座の回数増加により、専門性の高い機関で初学者向けの講座がより充実して実施されることは、地域の日本語教室にとって心強いことです。
- ・地域の日本語教室では日本社会のシステムまで話が及ばないので、社会参加のための日本語総合講座などは非常に評価できます。

<研究活動>

- ・ゼロビギナー向けの教材について、「絵」のみとすることで幅広い場面で使えるものを目指して開発を進めています。現在、試作版をボランティア団体に協力してもらって意見を集めている段階ですが、今後、外部資金の活用も図りながら、使いやすいものとしていくように期待します。

## 1 国際言語文化アカデミア外部評価委員会設置目的

国際言語文化アカデミアが実施する多文化共生社会づくりへ向けた各種講座について、より効果的・効率的な事業推進を図るため、講座内容や実施方法等に関し、外部の有識者で構成する外部評価委員会を設置し、事業評価を実施する。

## 2 外部評価の手法

### (1) 事後評価

各講座で実施したアンケートによる受講者評価及び講座担当教員が行う自己評価に加えて、一部講座の視察結果等を踏まえ、講座内容や実施方法等について評価を行う。

#### ①受講者による評価

各講座受講者を対象に、受講後、講座に対する満足度や感想、要望等について自由に記入するアンケート調査を実施

#### ②自己評価

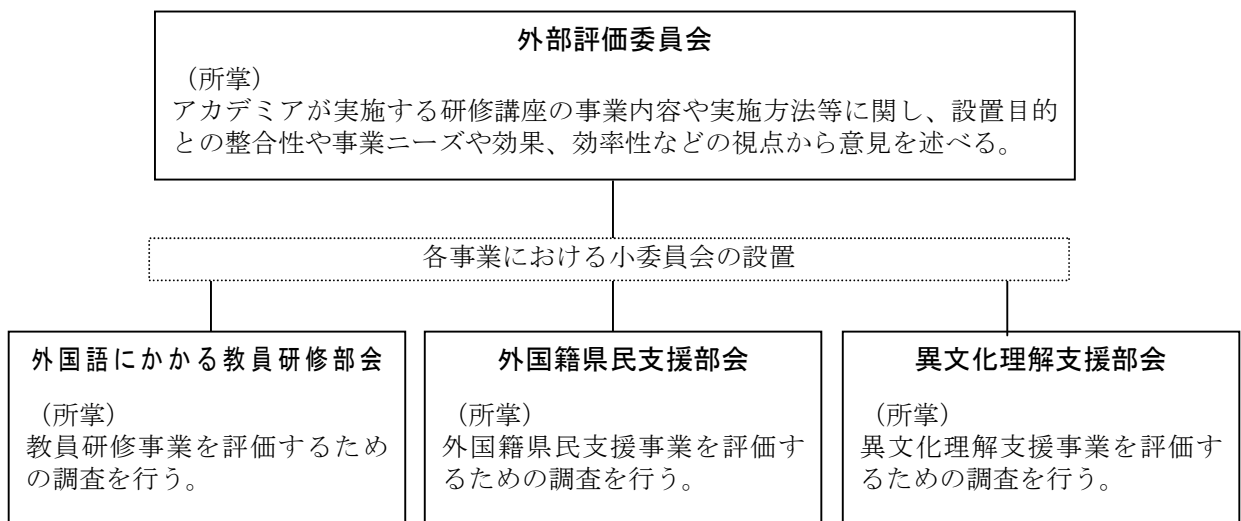
①の受講者による評価結果を踏まえ、講座を担当した教員が、自分の実施した講座についての自己評価を実施

### (2) 事前評価

次年度実施予定講座について、外部評価委員会での事後評価結果等を踏まえ、講座内容や実施方法等について評価を行う。

## 3 外部評価委員会の構成

次のとおり、外部評価委員会と3つの小委員会から構成される。



#### 4 外部評価委員

第3期委員（任期：平成27年7月1日から平成29年6月30日）

(50音順)

氏名	役職等	所属小委員会
岡 秀夫	東京大学名誉教授	異文化理解支援
粕谷 恭子	東京学芸大学教授	外国語教員研修
○加藤 重廣	公募委員	異文化理解支援
狩野 晶子	上智大学短期大学部准教授	外国語教員研修
城島 理子	(公社)青年海外協力協会あーすぷらご館長	外国籍県民支援
中 和子	ユッカの会代表	外国籍県民支援
服部 孝彦	大妻女子大学教授	外国語教員研修
丸谷 士都子	NPO 法人地球の木理事長	外国籍県民支援
◎渡邊 慎介	(学)関東学院常務理事	異文化理解支援

※ ◎委員長 ○副委員長

#### 5 外部評価委員会による評価結果

##### (1) 事後評価

- ・平成23年度実施事業(4月～9月)に対する評価 平成23年12月19日公表
- ・平成23年度実施事業(10月～3月)に対する評価 平成24年11月30日公表
- ・平成24年度実施事業に対する評価 平成25年6月28日公表
- ・平成27年度実施事業に対する評価 平成28年9月29日公表

##### (2) 事前評価

- ・平成24年度事業計画に対する事前評価 平成24年3月30日公表
- ・平成25年度事業計画に対する事前評価 平成25年2月28日公表
- ・平成26年度事業計画に対する事前評価 平成26年3月7日公表
- ・平成27年度事業計画に対する事前評価 平成27年5月29日公表
- ・平成28年度事業計画に対する事前評価 平成28年3月31日公表
- ・平成29年度事業計画に対する事前評価 平成29年4月28日公表

#### 6 外部評価委員会の開催状況

##### (1) 外部評価委員会

第1回 平成23年8月1日(月曜日)

第2回 平成24年2月1日(水曜日)



- 第3回 平成24年7月1日(日曜日)
- 第4回 平成25年1月21日(月曜日)
- 第5回 平成25年5月23日(木曜日)
- 第6回 平成26年1月23日(木曜日)
- 第7回 平成27年3月21日(土曜日)
- 第8回 平成28年2月11日(木曜日)
- 第9回 平成28年6月12日(日曜日)
- 第10回 平成29年1月31日(火曜日)

(2) 小委員会

ア 外国語にかかるとる教員研修部会

- 第1回 平成23年8月1日(月曜日)
- 第2回 平成23年9月7日(水曜日)
- 第3回 平成24年2月1日(水曜日)
- 第4回 平成24年7月1日(日曜日)
- 第5回 平成24年9月12日(水曜日)
- 第6回 平成25年1月21日(月曜日)
- 第7回 平成25年5月23日(木曜日)
- 第8回 平成25年8月1日(木曜日)
- 第9回 平成26年1月23日(木曜日)
- 第10回 平成27年3月21日(土曜日)
- 第11回 平成27年9月17日(木曜日)
- 第12回 平成28年2月11日(木曜日)
- 第13回 平成28年6月12日(日曜日)
- 第14回 平成28年8月17日(水曜日)、9月23日(金曜日)
- 第15回 平成29年1月31日(火曜日)

イ 外国籍県民支援部会

- 第1回 平成23年8月1日(月曜日)
- 第2回 平成23年9月17日(土曜日)
- 第3回 平成24年2月1日(水曜日)
- 第4回 平成24年7月1日(日曜日)
- 第5回 平成24年9月18日(火曜日)
- 第6回 平成25年1月21日(月曜日)
- 第7回 平成25年5月23日(木曜日)
- 第8回 平成25年7月18日(火曜日)
- 第9回 平成26年1月23日(木曜日)
- 第10回 平成27年3月21日(土曜日)
- 第11回 平成27年10月3日(土曜日)
- 第12回 平成28年2月11日(木曜日)

第13回 平成28年6月12日（日曜日）

第14回 平成28年10月8日（土曜日）

第15回 平成29年1月31日（火曜日）

ウ 異文化理解支援部会（第10回までは生涯学習支援部会）

第1回 平成23年8月1日（月曜日）

第2回 平成23年9月3日（土曜日）

第3回 平成24年2月1日（水曜日）

第4回 平成24年7月1日（日曜日）

第5回 平成24年9月29日（土曜日）

第6回 平成25年1月21日（月曜日）

第7回 平成25年5月23日（木曜日）

第8回 平成25年9月21日（土曜日）

第9回 平成26年1月23日（木曜日）

第10回 平成27年3月21日（土曜日）

第11回 平成27年10月3日（土曜日）

第12回 平成28年2月11日（木曜日）

第13回 平成28年6月12日（日曜日）

第14回 平成28年10月20日（木曜日）

第15回 平成29年1月31日（火曜日）